



宮城学院広報
MIYAGI GAKUIN

vol.
157
2017.10

Glory to God

巻頭言

グローバル・
サーバント・リーダーの
養成を目指して

学院長 嶋田 順好

MG TOPICS

卒業生紹介

宮本 瞳さん
齋藤 由布子さん

タイトル「Glory to God」は宮城学院の校歌「天にみ栄え」の英訳であり、本学院のキリスト教精神を象徴する言葉。旧東三番丁キャンパスの講堂内にも、この言葉が掲げられていた。

グローバル・サーバント・リーダーの養成を目指して

学院長 嶋田 順好

サーバント・リーダーシップという言葉が初めて聞かされたのは、2002年に当時資生堂社長をしておられた池田守男氏からでした。池田氏は異色の経営者で若かりし日に牧師となるべく東京神学大学で学ばれた経歴を持っておられ、銀座教会の忠実な信徒でもありました。今でもその講演に聴き入った時の新鮮な感動が忘れられません。なぜかと言えば、主イエスが「仕えられるためではなく、仕えるために、また多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10・45)と告げられたことを、これほど明瞭にわかりやすく表現する言葉もないと深く納得させられたからです。

いまではこの言葉に「グローバル」という言葉も付加されて、いたるところで用いられるようになり、いささか手垢がついてしまった感がなきにしもあらずです。しかし、この言葉を主イエスの隣人愛の歩みとの関わりで深く掘り下げて受けとめ続けることは、ミッション・スクールとしての宮城学院に連なる者たちにはとても大切な課題かと思えます。その関連で宮城学院の使命を思いめぐらすとき、ただ単にグローバルということではなく、グローバル・サーバント・リーダーの養成に心を注ぐことが、今の時代にはとても重要な使命ではないかと思われるようになりました。つまり、地域に根差しつつ、地球市民として歩む者の育成ということなのです。

グローバル化には光と陰があります。科学技術の後進国への移転に伴い、先進国には産業の空洞化がもたらされ、そのプロセスで先進国内にも、経済格差、地域間格差が生み出されてしまいました。その矛盾が、英国のEU離脱や米国大統領選に典型的に表れ、つまるところグローバル化とは反対の自国至上主義を引き起こして、それが世界のリスク要因となっています。日本も例外ではありません。

内村鑑三が、自らの墓碑銘にI for Japan; Japan for the World; The World for Christ; And All for God. と記したことはつとに知られていますが、今の時代はそれだけでは不十分で、わたしたちには、この言葉の冒頭に“I for Miyagi”を加えることが求められていると思うのです。もちろん仙台・宮城の地以外に住んでいる方々であれば、各々の住んでいる地名を入れて読むということになるでしょう。

地産地消という言葉は、「地域の産物を地域で消費する」ことを意味します。しかし、この四字熟語を「地域の産物、文化、伝統を地球規模で消費して(用いて)もらう」とことと理解することも可能でしょう。東京一極集中を克服し、地球規模で地域を元気にする道を開拓する想像力と創造力を持ったグローバル・サーバント・リーダーを育成すること、それこそが今、この時の宮城学院の使命ではないでしょうか。



＊「宮城学院女子大学 さくらレオクラブ」が誕生！

宮城学院女子大学に、仙台青葉ライオンズクラブをスポンサークラブとする「宮城学院女子大学さくらレオクラブ」が誕生しました。8月3日(木)には「結成確認書伝達式」が行われ、レオクラブメンバーのほか、仙台青葉ライオンズクラブのメンバーでもある郡和子仙台市長など総勢100名以上が出席し、新たな門出を祝いました。メンバー一同は、スローガンである「咲かせよう 奉仕の心」の下、奉仕活動に励むことを誓いました。2日後に行われた「仙台七夕花火祭」では、熱中症予防のために1600本を超える飲料水を配布するなど、早速奉仕活動に取り組んでいます。



＊「2017年度 宮城学院女子大学 後援会総会」開催！

5月27日(土)、2017年度の宮城学院女子大学後援会総会が開催されました。この総会は在学生の保護者の方々に、本学の学生支援体制や学生生活をより深く理解していただくため、年1回開催されています。当日は総会のほか、音楽科によるミニコンサート、学生によるミニキャンパスツアー、本学学生生活・就職状況報告、就職内定者による就職体験報告、学科クラス懇談会、就職個別相談会など、盛りだくさんの内容でした。



＊「小池昌代×池上冬樹 特別対談」開催！

7月6日(木)、詩人の小池昌代さんと池上冬樹先生(本学非常勤講師)による一般公開作家特別対談(主催:日本文学科)が開催されました。古典文学から現代文学まで話題は多岐にわたり、400名近い来場者は、お二人の話に熱心に耳を傾けました。対談の中で、お気に入りという式子内親王の「山深み 春とも知らぬ 松の戸に たえだえかかる 雪の玉水」という歌を学生に贈ってくださった小池さん。貴重な学びの時間になりました。



* 大学祭が開催されました

10月14日(土)・15日(日)、金木犀の甘い香りに包まれたキャンパスで宮城学院女子大学大学祭が開催されました。ステージ、テントそして教室の各会場では盛りだくさんの企画を用意し来場者の皆さんを迎えました。おもちゃのコーナーではお父さんやお母さんと一緒にお子さんが水ヨーヨーつりに挑戦したり、ぶんぶんゴマを楽しむ企画が好評でした。講義館前のテントでは軽食からスイーツまでさまざまな模擬店が出店し、美味しそうな香りが漂っていました。大学祭イメージキャラクター「みゃーがくちゃん」も来場者の皆さんと触れ合い大学祭を盛り上げていました。中夜祭企画のお化け屋敷には長蛇の列ができ、順番を待つ人でにぎわいました。

今年度のテーマ『tutti ~ 共に奏でるハーモニー ~』のとおり、ご来場いただいた皆さまと「一緒に」大学祭は大盛況のうちに無事に終了し、打ち上げ花火が夜空を彩りました。



* 中高文化祭が開催されました

8月26日(土)、校内発表を行いました。今年のテーマは「翔ける」。宮城学院は創立131年目を迎え、これまでの伝統を大切に、131年目の新たなステージへはばたいていきたいという思いが込められています。校内発表では、音楽班、ハンドベル班、オーケストラ班、演劇班、ダンス班などがこの文化祭に向けて練習してきた成果を披露してくれました。今年度からはオーケストラの弦楽部門に加えて管楽部門も発足し、両部門を統合したオーケストラ班の発表はとても迫力がありました。各班とも工夫した内容で皆で楽しめました。文化班の皆さん、ご苦労さまでした。

8月27日(日)は一般公開。天候にも恵まれ、昨年を上回る1,124名の方々をご来場くださいました。日常の学習や部活動の成果、クラスの繋がりを、はじけるパワーで皆さまにお届けすることができました。文化祭実行委員会を中心にMG生が一丸となって作り上げた文化祭、各々が翼を広げ新しいステージへ翔ける日となりました。多数ご来場いただきありがとうございました。



* 創立記念礼拝が行われました

9月18日(月)10時より礼拝堂において創立記念礼拝が行われました。嶋田順好学院長から「ただ主の愛のゆえに」と題してお話をいただいた後、永年勤続者の紹介が行われ、長年にわたる貢献をたたえて宮城光信理事長より表彰状と記念品を贈呈しました。つづく記念講演では講師に出村彰先生をお迎えし、「20世紀のマルティン・ルター 恩師ベントン博士に学ぶ」と題してお話をいただきました。

午後に執り行う予定だった北山キリスト教墓地での墓前礼拝は、前日からの台風の影響のため、場所を変更し礼拝堂で行うこととなりました。大久保直樹中宗教主事の説教の後、初代校長ブルボー先生のご献身に思いを馳せながら記念碑前に献花をいたしました。



創立記念礼拝～墓前礼拝スケジュール

創立記念礼拝	午前10時(礼拝堂)
永年勤続表彰	記念礼拝終了後(礼拝堂)
記念講演	午前11時(礼拝堂)
昼食会	午後0時(学生食堂 ピエリス)
墓前礼拝	午後1時30分(礼拝堂)
献花	墓前礼拝終了後(ブルボー記念碑前)

2017年度聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、
互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 第15章12節

＊「宮城学院女子大学音楽リエゾンセンター」の活動

2016年4月、「音楽の宮城」の力を広く活用するため、「音楽リエゾンセンター」(MLC)が設置されました。地域と大学をつなぐ(liaison)二つの事業、「認定演奏員制度」と「楽友ネットワーク」。学内では、大学の新たな全学共通教育MGUスタンダード科目のひとつ「音楽の世界」の運営サポートなどを中心に、活動実績を重ねています。

認定演奏員制度は、本センターがオーディションで厳選した演奏者を、地域の行事や教育活動にご紹介する制度。文化・福祉施設、幼稚園などの教育機関、本学の同窓会支部総会などから次々ご要望が寄せられ、ご好評を頂いています。楽友ネットワークは、ジャンルも音楽との関わりかたも問わない音楽愛好家のゆるやかなつながりをつくる制度。クラシック、合唱、ジャズ、邦楽、和太鼓、音楽評論、楽器製作など、さまざまな形で音楽とともに生きる「楽友」が集っています。

地域の音楽文化の新たな拠点として、活動を広げていきます。



仙台市内幼稚園で演奏する認定演奏員



楽友ネットワーク交流会／創作和太鼓グループの演奏

＊保護者の皆さまに学生の就職に関する情報提供をしております

2017年度大学後援会総会(5月27日)及び地区後援会(8月26日 福島・8月27日山形・9月2日盛岡・9月3日青森・9月10日秋田)にて、保護者の皆さまに2016年度卒業生の各学科の就職率・主な就職先・業種や職種の傾向、などをお知らせしました。

地区後援会では、各地区出身で且つ勤務地がその地区、あるいはご縁のある企業に内定を得た4年生(ジュニアアドバイザー)の体験談を、インタビュー形式で行いました。特に1～3年生の保護者の皆さまは、離れて暮らしているお嬢さんのこれからの就活をどのように応援し、見守るのかについて、参考にさせていただいたようです。

尚、今年度も「保護者のための就職支援セミナー」を予定しております。どうぞ参加いただきますようご案内申し上げます。



2017年度「保護者のための就職支援セミナー」

日時 2017年11月4日(土) 13:00～16:30(予定)

場所 本学講義館 C201教室およびキャリア支援センター

お申込み方法 ご案内を各ご家庭に郵送しておりますので裏面の申込書をFAX、またはメールにてお申込みください

お問い合わせ先 キャリア支援センター TEL:(022) 279-4957 FAX:(022) 279-4555 E-mail:career-c@mgu.ac.jp

＊森のこども園では不思議がいっぱい！
感動もいっぱい！

移転してからのこども園の生活は、普通の生活に喜びや感動の連続でした。園舎東側の森では早春にフキノトウが顔を出し、カタクリの花が一面に咲いていました。大きな山桜から散った花びらが屋根にも積もり、風で一斉に舞い上がりました。子ども達から思わず歓声が沸くほどでした。

子ども達には日々の生活を通して、季節が一番美しい状態を見逃さずに生活できる幸せがあります。夏には青々とした芝生の上にスプリンクラーが2台回って、盛大に水遊びをしました。子ども達が入ると、もの凄い数のトンボが飛び回り、セミが鳴いていました。子ども達にとって得がたい環境です。

6月20日(火)第1回森の音楽会でした。音楽科の学生によるバイオリンとピアノ、それにピアノの連弾でした。0歳児からみんな30分ぐらいの演奏を聴く事ができました。テンポの速い楽しい曲になると全員が身体を揺らしながら大喜びでした。



＊大学・同窓会連携授業「宮城学院同窓会軽井沢山荘」を実施しました

宮原育子先生担当の一般教育・特殊研究の授業で日本の代表的観光地の1つとして「軽井沢」を取り上げるといふ繋がりから、5月29日(月)に2名の同窓生岩井陽子元同窓会長、佐藤美千代様が招かれ、「宮城学院同窓会軽井沢山荘」について授業を展開しました。

長年、山荘の運営と維持管理に尽力された岩井陽子元会長からは山荘を寄贈下さったハンセン・リンゼイ両先生に始まる歴史、軽井沢在住の外国人宣教師との関係、山荘運営上のポリシーや色々なエピソードが語られ、学生の皆さんは初めて聴く歴史の重さと学校の素晴らしさに感激していました。

佐藤美千代さんは、夏休み1ヶ月間ボランティアとして山荘に住み込み、宿泊客の食事、掃除、洗濯、買い物を取り仕切って味わった様々な苦労もさることながら、現地の商店街の方々などがすぐに自分を信用して接してくれたのは、山荘に関わった歴代の同窓生が立派で、地元の皆様に評価されていたお蔭だと思い、宮城学院の卒業生であることを誇りに感じたと語ってくれました。

学生さん達にはTV「和風総本家」でも放送された軽井沢彫りのイスやテーブルも紹介し、大学・同窓会連携の授業を終了しました。



小 学校の教諭を目指し、たきっかけは、父が小学校教諭で、卒業生という関係築いているのを見ていたからです。また小学校のときの先生が物静かな私をいつも気にかけてくれたことで自分を出せるようになり、「私もこんな先生になりたい」と思いました。

夢を持ち続け、宮城学院女子大学児童教育学科に入学。1年次から教員採用試験に向けて、苦手なマツト運動をできるようになるまで練習したり、先生に相談したり、同じ目標をもつ友人たちと一緒に頑張りました。

念願の採用試験に合格したときは「いよいよ先生になるんだ」という期待と不安と胸がいつぱいに。新任1年目は、学級づくり、全科目の授業と学校行事の準備、子どもたちの喧嘩の解決、さらに週に何時間もの初任者研修があり、やることは山積みでした。それでも、子どもと関われる仕事できて、子どもたちが本当に可愛いくて、

無我夢中でした。大変だったのは、クラスには、いろいろな子どもがいるので、普通に授業を進めることが難しかったことです。それでも、周りの補助を受け、子どもと信頼関係を築くうちに状況は改善していききました。1年目は初めてのことがばかりで失敗の連続でしたが、先輩教諭から「落ち込む前に動け」「子どもたちが頑張れるように、褒め言葉を増やしていこう」という助言をもらい「へこんでいる暇はない」と気持ちを切り替えました。何か問題が起きて、管理職や先輩教諭に相談して一丸となって対策に取り組みます。ときには父にも相談します。悩みなながらも、たくさんいい出会いがあり、応援されて前に進めたことが、今の土台となり、糧になっています。

今年で3年目になり、仕事もたくさんまかせてもらえるようになり、運動会では、子どもと相談しながら作り上げ

て、保護者の方に「感動した」と喜んでくれたのは特にうれしかったです。

教諭として心がけているのは、話すより、まずは聞くこと。教えるより、子どもたちに考えさせること。何か課題を投げかけると、子どもたちは思いがけない新しい発見をします。当番や係などの役割を与えること、素晴らしい活躍をします。子どもたちが成長して、イキイキと活躍する姿をみるのは何よりの喜びです。

今後は、子どもたちにとってほしいかという理想像をさらに明確にして、そのためにどんな指導が必要かを考えて具体化していきたい。今も密な関係が続いている児童教育学科の友人たちやゼミの先生、そして信頼できる先輩教諭、同僚に支えられ、大切な子どもたちの成長を全力で支えていきたいです。



宮本 瞳さん

2014年度 宮城学院女子大学児童教育学科卒業
仙台市立長命ヶ丘小学校 教諭

宮城県仙台市生まれ。宮城県泉館山高等学校を卒業し2011年4月、宮城学院女子大学児童教育学科に入学。大学祭の実行委員を務める。小学校と幼稚園の両方の教員免許を取得。2015年4月から仙台市立長命ヶ丘小学校に赴任。趣味はスポーツ観戦、音楽。小学校時代はピアノを習い、中学・高校時代は吹奏楽部でクラリネットを演奏。

子どもたちが輝く未来のために「教える」より「引き出す」教諭に

「食へることは生きること」を体感し「管理栄養士として復興を支援



商品価値を高めて消費者が欲しいものをつくります

「食へることは生きること」を体感し、もっと生きる力になる食事を提供したいと思いました。災害派遣の終了後も復興支援に携わりたくて、仙台市が委託する復興支援施設「東北ろっけんパーク×仙台なびつく」のスタッフになりました。そこで物産市の店頭販売を経験し、商品売るには、研究・分析をして売れる商品づくりが必要だと感じました。

そして、仙台市産業振興事業団や復興庁で専門家として登録できたのも、IkiZenの代表理事になったのも、東北ろっけんパークでの実績やつながりがあり、周りから背中を押されたからでした。最初は管理栄養士にできることがあるのかと思いましたが、話を聞くと自分がやりたいことにつながっていました。

メインは商品開発です。東北にはいい商品があっても、営業やアピールは得意ではありません。しかも震災から復興するには、地域の中小企業がそれぞれ

頑張っても中央まで届きません。そこで、毛利元就の「三本の矢の教え」のように、1社ではなくエリア全体でまともなモノづくりの良さをアピールしていく、そのお手伝いをしていきます。これまで、石巻市の水産加工業社の「伊達なまき極」の商品開発、丸森町の特産品「へそ大根」の食べ方提案や販路拡大の支援、女川町の「いちじく茶」のパッケージ企画などを手掛けてきました。主婦と同じ目線で、今家庭の食卓で何が求められているかを掘り下げ、買いたくなるモノづくりを提案しています。

今年「東京スーパーマーケット・トレードショー」の復興支援ブースに続いて「全国消防救助技術大会」の飲食ブース「宮城復興グルメパーク」のコーディネートを担当しました。震災時に活躍してくれた全国の消防隊員の方々が再び宮城に集結して救助技術を競う姿を、とても感慨深く拝見しました。

また、出店の方が、ガン宣告をうけて入院中に震災に遭い、津波から命からがら逃げた商売を再開するまでの話を聞き、病氣も克服して元気に販売する姿を見て、心から良かったと思いました。

「食同源」という言葉が好きです。食は元気の源であり、細胞、健康を作る、それを様々なカタチで伝えていきたい。自分たち独自の売り場も持ちたいです。待つ時期があっても、時間がかかっても必ず出口にたどりつけるよう歩みを止めずいたい。全力で取り組んだことは、いつか財産になると信じて歩き続けます。

短 大の家政科食物専攻を卒業した翌年に結婚しました。約10年間は主婦業と子育てに集中し、子どもたちの小学校入学を機に復職。委託給食の会社で実務経験を積んで管理栄養士の国家資格を取得しました。

転機は2011年の東日本大震災でした。日本栄養士会の災害派遣で通算45日間、気仙沼市、石巻市の避難所で支援活動を行いました。そのとき、目標や希望を失った人たちの顔が、温かい味噌汁一杯で変わるのを目の当たりにしたのです。

「食へることは生きること」を体感し、もっと生きる力になる食事を提供したいと思いました。災害派遣の終了後も復興支援に携わりたくて、仙台市が委託する復興支援施設「東北ろっけんパーク×仙台なびつく」のスタッフになりました。そこで物産市の店頭販売を経験し、商品売るには、研究・分析をして売れる商品づくりが必要だと感じました。

そして、仙台市産業振興事業団や復興庁で専門家として登録できたのも、IkiZenの代表理事になったのも、東北ろっけんパークでの実績やつながりがあり、周りから背中を押されたからでした。最初は管理栄養士にできることがあるのかと思いましたが、話を聞くと自分がやりたいことにつながっていました。

メインは商品開発です。東北にはいい商品があっても、営業やアピールは得意ではありません。しかも震災から復興するには、地域の中小企業がそれぞれ

頑張っても中央まで届きません。そこで、毛利元就の「三本の矢の教え」のように、1社ではなくエリア全体でまともなモノづくりの良さをアピールしていく、そのお手伝いをしていきます。これまで、石巻市の水産加工業社の「伊達なまき極」の商品開発、丸森町の特産品「へそ大根」の食べ方提案や販路拡大の支援、女川町の「いちじく茶」のパッケージ企画などを手掛けてきました。主婦と同じ目線で、今家庭の食卓で何が求められているかを掘り下げ、買いたくなるモノづくりを提案しています。

今年「東京スーパーマーケット・トレードショー」の復興支援ブースに続いて「全国消防救助技術大会」の飲食ブース「宮城復興グルメパーク」のコーディネートを担当しました。震災時に活躍してくれた全国の消防隊員の方々が再び宮城に集結して救助技術を競う姿を、とても感慨深く拝見しました。

また、出店の方が、ガン宣告をうけて入院中に震災に遭い、津波から命からがら逃げた商売を再開するまでの話を聞き、病氣も克服して元気に販売する姿を見て、心から良かったと思いました。

「食同源」という言葉が好きです。食は元気の源であり、細胞、健康を作る、それを様々なカタチで伝えていきたい。自分たち独自の売り場も持ちたいです。待つ時期があっても、時間がかかっても必ず出口にたどりつけるよう歩みを止めずいたい。全力で取り組んだことは、いつか財産になると信じて歩き続けます。



齋藤 由布子さん

1988年度 宮城学院女子短期大学家政科食物専攻卒業
一般社団法人 IkiZen 代表理事

宮城県仙台市生まれ。宮城学院高等学校を卒業後、宮城学院女子短期大学家政科食物専攻に入学。2002年管理栄養士国家資格を取得。2015年5月、一般社団法人 IkiZen代表理事に就任。商品開発、販路拡大や広報支援などを行う。6次産業化プランナー派遣専門家登録。お酒、そば、温泉が好き。

創立130周年記念事業募金者芳名

【2017年2月1日～2017年3月31日受付分】
◎募金総額 85,168,541円 (2014年4月1日～2017年3月31日)

<p>一般・法人</p> <p>金1,000,000円 丸善雄松堂株式会社仙台支店様</p> <p>金100,000円 長谷川体育施設(東北支店)様 株式会社東誠社様</p> <p>金40,000円 キリスト教学校教育同盟 関東地区協議会様</p> <p>金20,000円 関 宗蔵様</p> <p>金10,000円 仙台五橋教会様 工藤 一郎様</p>	<p>大学</p> <p>金10,000円 千葉 美月様 遠藤 葵様 阿部 久様 森 尚之様 菅野 浩三様 匿名1名様</p> <p>高等学校</p> <p>金10,000円 匿名1名様</p> <p>中学校</p> <p>金10,000円 匿名1名様</p>	<p>同窓会</p> <p>金50,000円 大久 詔子様</p> <p>金30,000円 鈴木 まゆみ様 亀井 あかね様</p> <p>金20,000円 匿名2名様</p> <p>金12,159円 音楽科31回生有志様</p> <p>金10,000円 佐野 春子様 ボヴェ 関倫子様 橋浦 たか子様 紺野 裕子様 只野 雅美様 匿名1名様</p>	<p>役員・教職員・旧教職員</p> <p>金2,000,000円 宮城学院女子大学教員組合様</p> <p>金500,000円 宮城 光信様</p> <p>金300,000円 匿名2名様</p> <p>金30,000円 佐藤 祐見子様</p> <p>金20,000円 匿名1名様</p>
--	---	---	---

教育環境整備資金

【2017年4月1日～2017年9月30日受付分】
◎募金総額 5,834,400円 (2017年9月30日現在)

<p>一般・法人</p> <p>金60,000円 中国語学習会様</p> <p>大学</p> <p>金468,400円 門間 政彦様</p> <p>金50,000円 匿名1名様</p> <p>金30,000円 綾部 隆英様 宮崎 徹様</p> <p>金20,000円 齋藤 登則様 小池 達哉様 永山 進様 若山 良子様 吉村 謙一様 飯坂 勝幸様 渡辺 雅彦様 内藤 光保様 内野 勝様 平塚 瑞実様 板橋 昭一様 齋藤 浩清様 鈴木 守様 菅原 直秋様 塚本 任様 八鍬 悦子様 樫村 重慶様 遠藤 祐実様 佐藤 優衣様 阿部 剛様 小林 琢朗様 三浦 信宏様 遠藤 恒夫様 佐藤 弘夫様</p>	<p>鈴木 晴彦様 佐々木 努様 増森 俊文様 星 繁様 金沢 善幸様 斉藤 巧様 菅野 真衣様 奥田 由紀子様 船田 真由様 及川 春奈様 匿名8名様</p> <p>金10,000円 高橋 正明様 三上 恵二様 吉崎 主計様 結城 治勇様 齋藤 明男様 菊池 啓之様 井上 広志様 菊地 成年様 福島 一也様 佐藤 由貴様 三浦 宏様 野坂 美緒様 小山 貴子様 吉田 真久様 高橋 孝次様 佐藤 知香様 鈴木 隆之様 土岐 彰様 稲山 佳那様 森岡 ゆかり様 佐藤 真一様 村山 喜久雄様 及川 暖海様 高橋 英喜様 匿名4名様</p> <p>金5,000円 大野 悦男様</p>	<p>千葉 祐己様 小野寺 健司様</p> <p>金3,000円 山本 ささら様</p> <p>高等学校</p> <p>金200,000円 渡辺 睦生様</p> <p>金60,000円 遠藤 博光様</p> <p>金50,000円 菊田 浩之様 守谷 武彦様 黒田 秀一様</p> <p>金40,000円 高橋 俊光様</p> <p>金20,000円 浅野 勝志様 佐藤 一切様 角田 純子様 須藤 憲司様 近江 克規様 菊地 浩一様 匿名7名様</p> <p>金10,000円 小山 重人様 匿名3名様</p> <p>金5,000円 今野 幸輝様 後藤 優子様 千葉 智美様</p> <p>金2,000円 石川 七瀬様</p>	<p>中学校</p> <p>金50,000円 菊田 浩之様 菅井 厚志様</p> <p>金30,000円 高山 義朋様</p> <p>金20,000円 岩城 芳義様 小山内 ゆき様 友田 真吾様 武者 昌洋様 岩田 英典様 鈴木 流良様</p> <p>金10,000円 笹森 傑様 匿名1名様</p> <p>金5,000円 小幡 夏美様 後藤 純子様</p> <p>同窓会</p> <p>金100,000円 小川 愛子様 匿名1名様</p> <p>金10,000円 齋藤 能子様 匿名1名様</p> <p>役員・教職員・旧教職員</p> <p>金1,000,000円 宮城 光信様</p> <p>金500,000円 嶋田 順好様</p> <p>金300,000円 平川 新様</p>	<p>金200,000円 本田 辰雄様</p> <p>金100,000円 遠藤 安彦様 太田 富美子様 匿名2名様</p> <p>金80,000円 宮原 育子様</p> <p>金50,000円 伊藤 幸子様 モリスジョン様 匿名1名様</p> <p>金30,000円 匿名2名様</p> <p>金20,000円 菅澤 美保様 渡部 美紀子様 高橋 聡子様</p> <p>金10,000円 正司 純子様 匿名1名様</p> <p>金1,000円 David Franklin Goldberg様</p> <p>こども園</p> <p>金20,000円 阿部 一彦様</p>
--	--	---	--	--

皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

【今回の表紙】ステンドグラス

礼拝堂には、キリストの「降誕」「十字架」「昇天」の3枚のステンドグラスが織り成す“聖なる光”が降り注ぐ。1980年にフランスのステンドグラス作家ガブリエル・ロワールが制作したこれらのステンドグラスには宮城学院の校章が描きこまれるなど、随所に宮城学院らしさがあらわれている。

